

平和祈念碑建立 4 周年のつどい

7月7日（日）11：00より千葉市亥鼻公園で、平和祈念碑を守る会主催の平和祈念碑建立4周年のつどいを行いました。

ちょうど雨も上がり、23名の参加者で碑の前で黙とうを捧げ、代表の森大死より挨拶、石垣りんさんの詩「弔辞」を竹山幸子さんに朗読していただき、今年の刻銘の更新について伊藤章夫より説明し、皆さんと当時を振り返り、二度と繰り返さないという誓いを新たにしました。当日の様子が毎日新聞に掲載されましたので、ご紹介します。



千葉市空襲

74年 犠牲者の無念、忘れず 祈念碑前、遺族ら黙とう / 千葉

毎日新聞 2019年7月8日 地方版(デジタル)



父の刻銘を指す森大死さん＝千葉市中央区で

太平洋戦争末期の1945年7月7日、千葉市街地が米軍に爆撃され、多数が犠牲となった千葉市空襲から74年を迎えた。7日、同市中央区の亥鼻公園に建立されている平和祈念碑前では、遺族ら約20人が集まり、黙とうをささげた。【宮本翔平】

市によると、45年6月10日午前7時45分ごろ、日立航空機千葉工場があった現在の中央区川崎町周辺に、米軍機27機が爆弾138・2トン投下し、死傷者391人が出た。7月7日午前1時39分～同3時5分には129機が889・5トンの焼夷弾や爆弾を投下し、1204人が死傷した。

祈念碑は市民らでつくる実行委が寄付を募り、市内の犠牲者671人の氏名、あだ名、肩書などを刻んで2015年に建てられた。実行委メンバーらで「平和祈念碑を守る会」を発足し現在は721人が刻銘されている。

昨年7月に会代表となった森大死(だいじ)さん(77)＝緑区＝は6月10日の空襲で父辰蔵さんを亡くした。当時3歳。家族6人で蘇我町(当時)に暮らし、自宅の防空壕(ごう)で体が浮くような振動や、煙による息苦しさを覚えたことは覚えている。横浜で働く父はたまに自宅に戻る程度だった。出勤する間際の空襲で生き埋めとなり、後になって掘り出されたと母から聞かされた。「朝ご飯を食べて仕事に行こうとした途端に亡くなった。こんな苦しみはない」と父の無念を思う。

新たに調査で判明し碑に刻んだ犠牲者は16年25人、17年14人、18年9人、19年2人と減少している。この日の集会では「時間の壁がどんどん高くなっている。祈念碑が犠牲者、遺族のよりどころになるよう活動を続けたい」とあいさつした。

森さんは語気を強める。「戦争、空襲で犠牲になった人を忘れてほしくない。いつまでも戦後のままで『戦前』にならないでほしい」

平和祈念碑を守る会	
会計報告	
昨年繰り越し	222,565
本年収支	-15,066
来年繰り越し	207,499 円
【ご寄付総額 3,408,821 円】	